

# 平成 23 年度自転車安全点検全国普及活動事業報告

昭和 42 年から続いているこの事業は延べ 325,147 会場で 71,756,729 台の自転車を点検しました。

(財)自転車産業振興協会は日本自転車軽自動車商協同組合連合会(日商連)と日商連傘下の都道府県自転車商協同組合の協力を得て、全国 44 都道府県において学校、街頭、自転車小売店、公共施設などの会場で自転車安全点検事業を実施しました。

平成 23 年度は 3,297 会場で日頃使用されている自転車 469,310 台を点検するとともに、347 会場で安全点検講習会を行いました。これらの活動により、自転車利用者に対して自転車の点検整備励行とともに、自転車安全利用の促進を促しました。

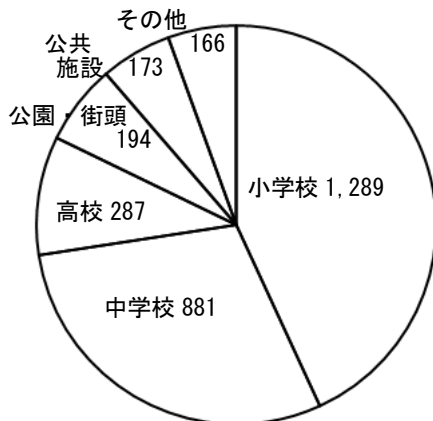
「自転車安全点検全国普及活動」事業は、当協会の「消費者の安全性確保事業」の中の重要事業として、自転車技士・自転車組立整備士・自転車安全整備士の資格を有する日商連の組合員の協力を得て年間を通して実施しているものであり、平成 24 年度においても同様に実施することとしています。

### 自転車安全点検全国普及活動（平成 23 年度）

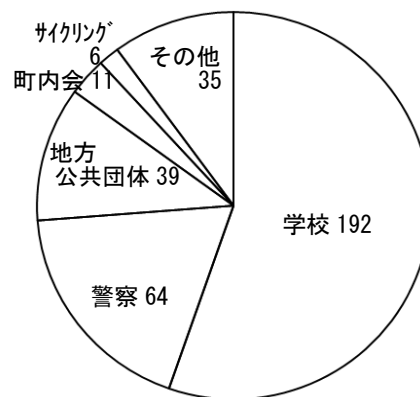
- ・「拠点型安全点検」 学校、公園、街頭等で行いました。

学校、都道府県警察、地方公共団体、自転車安全推進団体等からの要請を受け、これらの機関と協力して実施しました。日商連傘下の組合員が点検を行い、整備が必要な自転車に要整備箇所を示した安全点検カードを付け、自転車専門店での修理を促しました。延べ 2,990 の会場で日頃使用中の自転車 440,304 台を点検しました。

【拠点型 2,990 会場の内訳】



【講習会 347 会場の主たる連携先内訳】

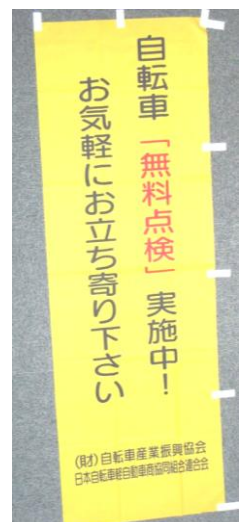


- ・「店舗型安全点検」 日商連傘下組合員の自転車店で行いました。

307 会場で、延べ 1,236 の自転車小売店が 29,006 台の日常使用中の自転車を点検しました。実施している自転車小売店はのぼり旗を掲げ来店を促しました。点検後は使用している自転車の状態を安全点検実施伝票に記入して、利用者に点検整備の励行を働きかけました。

- ・「安全点検講習会」 学校、都道府県警察、地方公共団体、自転車安全推進団体等が参画する催事会場で行いました。

学校、都道府県警察、地方公共団体、自転車安全推進団体等による交通安全教室などの延べ 347 会場で、日商連傘下組合員が日常点検・整備の重要性、正しい自転車の乗り方や交通ルール・マナー等を題材とした講習を行い、40,503 人が参加しました。講習会は自転車安全推進団体と警察など複数の連携先により開催されることもあります。



【安全点検会場で掲げられるのぼり旗】

# 「平成23年度自転車安全点検全国普及活動」

## ◎「拠点型安全点検」実施報告書における実施団体からの事業成果及び所見

スーパーで購入の自転車が多く、また、点検して要整備箇所を指導しても修理に来ない等、私たちが点検事業をする意味に疑問の声が出ております。その中でも専門店として地域、学校に根ざす活動をしていくしかないという意見もあります。
通学自転車に関しては、点検がかなり浸透しているが、一般ユーザーの自転車点検の意識が低い。今後は地域イベント等での安全点検の実施と街頭点検を強化したいと考えている。
3. 11東日本大震災で被災5支部では安全点検を実施出来なかった。放置自転車を修理し被災避難所、市内避難者に支援し、大変喜ばれ感謝された。
本事業に賛同された学校、地方公共団体等からの要請により、自転車点検を実施したうえで、その場でできる調整、整備を実施しました。今年度は3月11日の震災のせいか学校からの要請が少なかったようです。
拠点型109会場では、学校関係が105会場と全体の96.3%でした。実施台数の総点検数15,910台に対し要整備車は23.55%でした。学校の統廃合があったことにより実施場所も減少が見受けられました。地域の自転車は安全、安心と交通マナーを呼び掛けました。
要整備車はまだ、まだ多い。要整備車を早めに整備するように指導。防犯登録証の貼付はほぼ普及しているが、TSマークは知っている人が少ない。
本年度は東日本大震災の影響を大きく受けた後となり、例年通りとはいかなかったが、計53会場で行うことが出来ました。そして、小中学生を中心に要整備箇所、特にベル、ブザーに関して注意を喚起することができた事は良かったと思います。
点検をして驚くことは、整備が必要な自転車を平気で乗用している中・高校生には交通事故の恐さを知って欲しい。自転車乗用者のマナーの悪さと、自転車の要整備車と共通の部分があるように思われる。
昨年同様、ベル、ブザーの無い自転車、チェーンの緩い自転車が目立つ。点検台数が減っているが、要整備車の割合は減ってきていて、整備の大切さが浸透してきているのか。
特にブレーキ調整の必要なものが多く、次でベル、タイヤ、チェーンの要整備が目立った。また、TSマーク無しや期限切れがたくさんあったため、子供たちを安全に守るには、点検が必要不可欠であることを説明し理解を深めた。地域によっては学校側でTSマークを義務化している所も数校あった。
自転車の利用者が増加している今日、点検・整備の重要性を重視し、この事業に取組んでいる。毎年行っている学校等では要整備車が減少し、成果を上げている。特にブレーキ、チェーンを重視し、点検を行っている。
各支部に安全点検が定着してきています。また、事業を行っていることが、多方面に知られてきていることが良いと思います。今回実施件数が少なかったが、新しい支部長との引継ぎがもう少し良ければと感じ、次年度の課題とする。
震災の影響により、例年実績の多い支部の会場数は減少したが、結果的には去年よりも会場数は増加した。警察署からの依頼も多く自転車の安全乗用について注目されている様子である。ブレーキ関係の調整が相変わらず多く、定期点検の啓発が必要と思われる。
自転車の安全利用が叫ばれる中、要整備車が全体の6割強を占めている現状を今後どのように告知していくかが、この業界にとって最も重要なひとつと考えます。
小学校55会場、中学校35会場、高校12会場、公共施設2会場、公園・街頭2会場で実施。実施結果106会場、自転車点検台数11,817台。
ブレーキ、車輪、チェーンの要整備車が多く、安全走行するために日頃から点検整備をするように指導しました。TSマークは無しや期限切れが多くみられた。熱心な先生の異動により実施会場が減少しました。
学校から通学自転車の安全点検の依頼が何校からか有るように、事業が浸透して来ました。点検の時の調整も大変喜ばれております。業界としましてでも少しでも社会に貢献するよう今後も続けていくよう努力する。
少子化により小学校での点検台数が減少している。要整備の自転車に整備しないまま乗車している学生が多くなった。要整備の自転車使用による交通事故を防ぐためにも整備された自転車利用を訴えていきたい。
当事業につき、本組合としての実績ご報告いたします。毎年のことながら、この事業は組合の一事業として、今後共実施いたします。
23年度は、前年に比べ総点検台数が下回りました。内容は大きな支部での取組みが少し様変わり(学校側のやり方に変更)会場数が減りました。公共の駅前や駐輪場での取組みは、何処の支部も警察及び地方公共団体との協力のもと実施できたと思います。
例年通りの活動が出来た。支部によって活発に活動する地域とそうでない支部に分かれる。
小学校、中学校の点検では、毎年の点検の成果もあり、良好な自転車が多い。高校では整備に来ない場合が多い。
本年は、年々組合員の高齢化が進み、地域からの点検の要望があっても、体調が悪い時があり、出来なかったとの支部もあり、頑張った支部と、出来なかった支部との2分化があった。例年のように警察や地域の安協・PTAのご協力もあり、小学校の会場等では地域の人の自転車も点検した会場もあった。又、過疎の小学校では、点検台数が少なかった。当地は量販店が多く、量販店からの購入車の要整備車が多かった。自転車に関する交通事故が問題視されているが、修理しないで使用している現状だ。防犯登録は、通販で購入や友人から譲渡された自転車に、貼付していないように思われる。又、子供車に付けられない店もある。TSマークは期限切れが多い。点検だけで終わらないで要整備の自転車は整備を義務付ける良い方法はないのでしょうか。
ブレーキ、ベル、ブザーの要整備車が多いものの、良好車が多くなってきている。
某中学校では内装3段付80%、ハブダイナモ付80%と高額自転車が多く、また室内駐輪場も完備され、改造自転車も見受けられなかった。某高校で、先生・組合員が点検内容を協議し、項目別に調整を実施。通学許可シール、防犯登録内容等、又、2人乗用のハブステップの撤去を実施した。ハブステップについては卒業まで、学校預かりとなっている。
実施会場、実施支部共に、年々減少している。小学校での自転車点検は定着しているが、自転車通学が多い高校の点検会場が毎年少ないので、対策を考えたい。
要整備車がやはり多く、なかなか個々の安全への意識が薄い。より一層の働きがけをしていきたい。点検時に調整して安全に乗れるように作業を行った。
警察本部より春・秋の全国交通安全運動の一環として行われた一斉の自転車安全指導キャンペーン及び地域安全運動への協力要請があり、各支部は所轄警察署からの協力依頼を受けて自転車の安全点検整備を重点に実施し、前年度に引き続き助成限度会場数を大きく上回る実施会場数となった。
今年度も地域の方々と連携を取り、実施できました。来年度もまた、地域の方々・警察・学校などと連携を取り、地域の自転車の安全対策に積極的に取り組むたいと思います。
地域での組合員活動として社会に定着し、安全と安心を強力にアプローチのできる有効な事業である。事業の継続を望む。
各学校に対し、安全点検の推進をしてきました。点検実施が定着しつつあります。要整備箇所の整備をするよう働きかける。
昨年より実施数は減ったものの、各支部で熱心に実施され、交通関係者や生徒父兄より感謝された。
今年度は5月、6月に雨が多く、3会場が雨のため中止になった(学校行事などで延期は難しい)。TSマーク無しが多い。
自転車事故に関するニュースが連日のように報道されている中、未だ自転車ユーザーの安全性に対する認識の甘さを感じる。学校関係の中には昨年度より厳しく安全点検に取り組んでいるところも見受けられたが、まだまだ自転車が車両であり、要整備車は重大事故にも結びつくという認識には至っていない。今後は各機関と連携し、より一層効果的な点検方法を考えるべきではないだろうか。
学校や地域において自転車安全点検を各支部で続けていますが、諸般の事情により割当の15会場できませんでした。よろしくお祈りいたします。

毎年点検事業で学校同士の連絡により、今まで点検をしていない学校からの依頼があるようになった。
点検台数は昨年度とあまり変わらないが、要整備車が少なくなっているのは喜ばしい限りである。小学生の小さな事故が増加している故か、例年に比べ今年度は小学校での点検が増えた。依然として、ベル・ライトの要整備が多く見られたので、交通事故防止と安全乗用のために、関係者に注意を促した。
交通安全に力を入れている学校での自転車は整備ができていたが、そうでない学校では要整備の自転車が多い。家庭にあっては家族全員が整備に関心をもち、子供には安全・安心な自転車に乗って欲しい。総点検台数の約27%にTSマーク無し、防犯登録では約3%が無し。昨今自転車事故が多発しているのより一層の指導が必要である。
今年は警察、安全協会との連携により事故防止の徹底、自転車の自己点検の実施指導等が多かった。今後も組合単独でなく行政と協力して自転車の安全走行に励みたいと思っています。
会場に持ち込まれる台数が、昨今、やや減少したようですが、防犯登録の貼付義務に対しては、順調に推進されていると思われる。しかし、TSマークについては、量販店より販売されたものには、殆ど貼付されておらず、取り扱い等の面で、専門店と何らかの方策を講ずる必要があるのではないかと、とも思う。
例年通り学校やPTAなどの要請で点検を実施。毎年のことだが、雨で点検が中止になった学校が何校もあったと聞いている。学校側のスケジュールの都合もあるのだろうが、せめて1年に1度の点検は実施し、子供の安全に気を配っていただきたい。学校で実施されなかった場合、各家庭で個別に自転車店へ行くことは少ないのではないかと。自転車は身近にある便利な乗物であるが、まだまだ点検整備が当たり前という認識までは至っていない。これが常識になるような日が来ることを望みたい。
本年度は、総点検台数が減少した。又、点検要望は多くあるが、点検台数が減っている会場の報告書もあり、苦慮している。
今年度の点検結果としては、テレビ等の報道の影響もあり、事前点検整備が幾分進んでいるものと考えられる。良好車が70%近くあった。要整備箇所、下校時に危険と思われるブレーキなどについてはその場で調整をして安全を図った。今後も同様な形で点検整備を進めていきたい。

## ◎「店舗型安全点検」実施報告書における実施団体からの事業成果及び所見

店舗型安全点検を上手に商売に活用している店舗が多くなってきた。特にTSマークの貼付が増えてきた。この点検によって、TSマークが進めやすくなったあらわれだと思われる。
店舗型安全点検は、組合員の少ない支部でも実施でき、点検実施伝票を記載することにより点検への意識が利用者のみならず組合員も高まると考える。
安全点検のお客様が少なく、修理依頼のお客様が多かった。
自転車利用者に対して乗用安全の意識を高めるため、各自転車小売店において、自転車各部の点検を実施し、要整備箇所はその場で整備を促しました。平成23年3月11日の震災により来客数が少ない店もあったようです。
店舗型安全点検で気軽にユーザーが来店できることは良いことです。安全整備士の点検で自転車にちょっとでも手を加えることで乗り心地が良くなることを、ユーザーに知ってもらえれば点検の意識向上につながると思います。
防犯登録証の貼付率は100%近くまでになっているが、TSマークの認識はまだ、低いようです。自転車は点検整備しないでそのまま乗っている人が多いので、空気の抜けたタイヤ、ブレーキの具合が悪いなどの自転車が多い。
自転車店への持ち込み点検ということからか、要整備車の割合が高かった。自転車利用者は基本的に不具合がなければ整備をしないという感覚あることもこのことから伺える。また、TSマーク普及も含め、今後の課題かと思えます。
お客様が少なく、点検するにも自転車乗用者がいない。又、お金を出してまでは修理しない。まだ乗れるから点検だけでいい、という自転車の故障に無頓着な人が多いです。
タイヤの空気圧の弱い物が多かった。TSマークの宣伝はしているが、貼付率が昨年より下がってしまった。
毎年のことであるが、防犯登録の貼付率が高いのに対してTSマークの貼付率は一向に上がっていない。しかしながら、昨年より各保険会社が自転車保険を出してきており、このことはユーザーの安全意識の向上からと思われる。安全意識の向上により徐々にTSマークの貼付率も上向きになると考える。
組合員の減少もあり、実施会場1会場、実施店7店少なくなりました。店舗でもブレーキ、車輪、チェーンの要整備車が多く見られます。防犯登録は90%以上の普及率ですが、TSマークの貼付は34%でした。
ブレーキの要整備とタイヤに空気の少ないものが多く、チェーンのたるみも目立った。日常の整備の必要性をユーザーに伝えることができた。
事業実施時期に合わせ、安全点検に来られる利用者があり、活動が定着しつつの実感で、利用者から重宝されております。殆ど、どこかが悪いので持ち込むのですが、都度利用者に対して対面で安全点検と合わせ、安全利用にとTSマークの無い自転車には、貼るように指導を行ったとのこと。
店舗において、点検は簡単ですが、実施伝票や報告書の作成に手間がかかり面倒のようです。
TSマークを貼付した近隣得意先に「安全点検ハガキ」を郵送した。また、昨今、当地は高齢者自転車事故が増えているため、自転車マナーやTSマークについて説明。「自転車も車両の仲間」である旨周知徹底を図った。
各支部とも組合員店の積極的な参加によって予定数を上回る参加店数となった。店舗での丁寧な点検・整備の実施により、日常の点検・整備の重要性について自転車乗用者の認識を深め、さらには利用者の安全意識の高揚を図る役割を担うことができた。
本年度は、各支部の地域性に関わらず要整備件数が多いところが見受けられた。このことから、都市部でなくても地道に販売活動を行ってれば、来客数の増加、安全点検活動の促進につながるのではと思われる。
店頭での事業が好評である。のぼり旗により来店者にアピールし、組合員が社会に貢献している現状を知ってもらうことも、組合事業の重要点と思えます。
店舗型安全点検は、要整備箇所の整備がその場ですぐ出来るので安全性において成果がある。
毎年、学校・PTAから依頼され実施。
要整備車をそのまま乗っている自転車乗用者が多く見受けられるので、今後も点検や整備をすすめる必要があると思われる。
安全点検の結果、要整備自転車に関しては有料整備をいたしました。一部で整備も無料と思われる方もいました。今後も地域の自転車の安全走行に貢献していきたいと思っています。
防犯登録、TSマークのセット貼付について、理解を深め、専門店の自転車販売促進につなげるため、一考を要する必要があるのではと思われる。
データから、ブレーキ、チェーン、車輪、ライト、ベル・ブザー等の要整備件数が非常に多く見受けられるようだが、「自転車だから、これくらいは大丈夫。」という妙な安心感になっているのだろうか。学校で通学許可をもらうための点検整備であることが多いのだが、昨今はテレビや新聞でTSマークの報道もあり、一般の方にもTS点検が浸透してきたようだ。ただ、点検後の整備済件数を見ると100%にはなっていない。店舗では早めの来店を促していると思うが、ユーザーが自覚し、早急に対処されるように望む。
店舗型安全点検は、即結果が出るので、整備店には大変メリットがある。

## ◎「安全点検講習会」実施報告書における実施団体からの事業成果及び所見

自転車通学を許可している学校が、乗り方指導を行っている。実施しているところが、例年同じで、他地域に広がっていないところが課題である。
子供自転車大会を通じて学校のみだけでなく、地域においても自転車の安全な乗り方の意識が高まっているので、今後も継続的に実施していきたいと考えている。

今年度の安全点検講習会は、小学校、中学校、高校合わせて3校実施しました。事故のない安全走行をしてもらうために、点検後、要整備自転車を使い、要整備箇所の説明と二重ロックの大切さを伝えました。また、交通安全を呼びかけながらパレードをしたことで、地区全体の交通安全のためにも点検の必要性が伝わっていくことを望みます。
道路交通法に基づく交通ルールを勉強してもらった。常に自転車の点検整備も必要で、要整備車が事故につながることも分かってもらった。
地区警察の協力のもと講習会や拠点型安全点検と併せて実技指導・講習会を行うことにより効果的に安全な自転車の使用を指導できた。
自転車事故に関するニュースが非常に多い。学校やPTAから交通安全、自転車の乗り方教室は大変よろこばれております。中学生、高校生になると指導員の話も右から左へ聞き流されて、交通違反を繰り返すという場面をよく見かけます。自転車講習は小学校低学年から始めるのが良いと感じています。
自転車の歩道走行の規制等、自転車に関する規制が厳しくなったことを受け、講習会での交通ルールの説明・定期点検の重要性が重視された。ある支部では講習会の成果を上げており、毎年小学校から要請を受け、開催している。
自転車のルール・マナーの教育について各地で活発に講習会が実施され、昨年よりも会場数は増加した。
組合員参加のもと警察署の方や交通安全指導員から正しい自転車の乗り方について講話があった。歩行訓練、自転車訓練を実施し、安全意識が高まる交通安全の講習会を行った。
交通ルールを守って安全に走行するようヘルメットの着用、横断歩道の渡り方、TSマークについての必要性を指導しました。実施会場に片寄りがあり、各地域で実施されるように組合員に指導促進してまいります。
自転車の安全な乗り方、整備箇所の講習後、実際に点検整備を行ったため、点検整備後の自転車の快適さに感心し点検整備の大切さを感じていた。来店し点検整備する自転車利用者の増加を期待します。
各地区において安全点検講習会を開催し、各学校、地域で熱心に受講してもらった。自転車の交通ルールを守ることの大切さ、交通事故防止の意義を学ぶ機会であり、今後共継続して、このような講習会を実施してほしいとの要望が多数の地区から寄せられた。
市内ブロック3支部合同行事に定着、警察署交通課及び安全協会指導員の協力を仰ぎ、指導に当たる学校関係者(指導教師・PTA・生徒代表)に対し、安全運転の正しい乗り方、悪い事例を交え、又、最近の交通ルールの改正と、罰則などの講習を行っていただきました。
学校とPTA・安全協会と連携のもとに毎年実施される。自転車の乗り方を小学生時に体験するのは意義深いと思われる。
高齢者による交通事故が多いため、安全な走行に必要な点検整備と走行ルールについて講習会を実施した。連携団体の協力のもと、参加者の方々に理解していただけたものと思われる。
本年は、ある支部と地方公共団体から交通安全に対するマナーを強化するようとの要望があったので、高齢者を対象にサイクリングの説明の後、乗り方やマナーを指導しました。又、他の支部でも、学校での安全点検の時は、地域の安協と学校のPTAの協力のもとに、講習会を実施し、自転車利用者の交通ルール無視やマナーの悪さを注意し、交通安全の大切な事を指導しました。秋に、安協からの要請により、高齢者を対象にした安全な乗り方や、日頃の点検の仕方などの指導のために、組合員を派遣し、協力しました。
道路交通法の改正された点を重点に講習会を開き事故防止をよびかけました。
小学校・中学校でPTA・警察等の協力のもと、前回の点検結果・総評とモデル自転車で点検について説明し、生徒代表に反復点検を実施。空気・ブレーキ、バル等の要整備が多く驚いた。警察より交通事故防止策を説明頂いた。
全国交通安全運動の一環として高齢者や子どもを対象とした交通安全教育行事と連携して、自転車の正しい乗り方と点検・整備について実演による分かりやすい講習を実施し、自転車利用者の安全意識の向上と点検整備の励行の重要性についての認識を深めることができた。今後も、地方公共団体・学校等との連携により継続的に講習会を実施し、自転車の安全利用の推進に努めたい。
自転車事故が報道機関等で取り上げられることが多々あった今年度、事故の防止のためにも学校を中心に講習会を行い事故防止の啓発活動を強化しました。来年度も引き続き地域に密着した活動を行う所存です。
自転車安全利用の向上のための講習会として効果的な事業であると共に、利用促進を図る上で、有効な事業であり、継続を望む。
教習所のコースを使用した指導もあり、実際の道路に即して自転車の安全な乗り方やルールを学び保護者と共に安全運転の意識も深まった。
会場数が減ったが、内容は密度の濃いものとなった。草の根的な活動が事故防止につながると信じて、今後も実施していく。
今年は5月、6月に雨が多く、2会場中止になった(学校行事などで延期が難しい)。小学校低学年を対象に交通安全・交通ルールについて実技指導等が行われた。
小学校では実際に自転車を使用する講習会が多く、中学校では、座学形式での講習会が多い。内容としては、各警察署、安全協会と協力し、講師オリジナルの教材等を使用しながら児童・生徒の興味を引くよう工夫している。今後は一般向けの講習会開催も検討したい。
子供と高齢者の自転車事故の減少と事故を未然に防ぐための安全利用、マナーの向上についての指導を行いました。
交通指導員の指示に従って指導し、自転車の点検等についても念入りに講習した。
今回は理解度の違いがあるので低学年と高学年と2回に分けて実施し、高学年には交通ルールの他、自分で出来る範囲の自転車点検を学ばせました。又、自転車事故の怖さをDVDで見ることによって安全運転の大切さを確認させることが出来ました。
恒例の指導員講習会が開催された。当組合からは受講生及び講師、実技指導のスタッフを出し、交通安全の普及に貢献する人材の育成にあたった。当組合理事長はTSマーク制度等の話を交えながら講義を行った。その後、子供自転車大会のコースを利用した基本走行及び二人乗りや携帯電話を使用しながらの危険な乗り方、ピスト車で走行等も体験した。「役に立つ講習会を受講することができて大変良かった。」という意見もきくことができた。
安全点検促進は、各学校を通し、保護者会(PTA)への呼びかけが最も成果が上がると思います。